

## V59a 東アジア地域センターのユーザー支援機能と ALMA の初期運用

奥村幸子、齋藤正雄、立原研悟、西合一矢、樋口あや、谷田貝宇、小杉城治 (国立天文台)

ALMA の科学運用は、チリにある合同アルマ観測所と、ヨーロッパ・北米・東アジアにある 3 つの地域センター (ALMA Regional Center; ARC) が協力して実施する。観測の実行は、チリのアルマ観測所が主体となり、ダイナミックスケジューリングによりサービス観測が実行される。各地域のユーザーは、ARC が提供するポータルサイトからログインし、ALMA から提供されるツールを使って、プロポーザルの準備・投稿から、観測プログラムの作成・その後の観測ステータスのモニターを行う。最終的に得られた観測データ及び関連情報はすべて ALMA のアーカイブシステムに保存され、各 ARC のアーカイブシステムにミラーされる。ユーザーは、ARC のアーカイブシステムにログインして、観測データの解析を行う。各地域の ARC では、*face-to-face* あるいは *Helpdesk* システムを使って、一連のユーザーが行う作業の支援活動を実施する。本講演では、これらのユーザー支援機能について時間を追って説明するが、詳細は、立原 (プロポーザル準備)、樋口 (データ解析ソフトウェア)、谷田貝 (UserPortal と Helpdesk) の講演を参照いただきたい。

また、ALMA では、各地域からのプロポーザルに対し、共通の 1 つの審査委員会で、技術審査及び科学的な評価と、プロポーザルの採否決定が行われる。プロポーザルの募集は、当面は年 1 回予定されている。科学的な審査は、大きく 4 つの分野に分けて行われる第一段階の審査と、分野をすべて統合して採否を決定する第二段審査がある。これらの審査が、プロポーザル締め切り後、約 2 ヶ月間で実施され、ユーザーに結果が通知される。本講演では、審査プロセスについても簡単に解説し、加えて、今年度内に予定されている、最初の科学運用 (初期運用) に関する最新の情報を紹介する。